

農作業特報

魚津市
魚津市農業技術者協議会

高品質で美味しい米づくりには、土づくりが不可欠です。
美味しい「魚津米」のため、土への愛情を込めて、
土づくりをお願いします。



土壌診断の結果に基づく、土づくりの実践！

「土づくり」は作物への効果がわかりにくいことから、ついつい後回しになりがちです。
しかし、ここ数年は加里・ケイ酸・鉄分の不足が要因と思われる「ごま葉枯病」(写真1)の発生が砂壤土を中心に目立ちます。
特にケイ酸は水稻の収穫物(もみ殻など)としては場から持ち出されるため、ほとんどのほ場でケイ酸分が不足しており、ケイ酸分の施用が少ないほど「割粃」(写真2)の発生がみられます。
土壌診断の結果をもとに、不足する養分補給に効果的な資材を選んで「土づくり」に取り組みましょう。



写真1 ごま葉枯病の病斑



写真2 割粃(円内)

「元気な土づくり」のポイント

- ポイント1：土づくり資材の施用
土壌酸度の矯正や不足養分の補給 → ケイ酸質資材など土壌改良資材の施用
- ポイント2：有機物の施用
腐植含量の増加、物理性改善 → 堆肥や発酵鶏ふんなどの有機物の散布
地力増進作物の活用
- ポイント3：深耕の実施
深耕等による根域の拡大と稲わらの腐熟促進 → 秋耕と春耕の2回耕起
作土深15cm以上の確保

ポイント1：土づくり資材の施用

土づくり資材の施用で、葉や根を丈夫にし、病気や倒伏に強い稲を作りましょう。

| 資材名 | 資材の特徴と保証成分量 | 10a当り施用量 |
|------------|--|-----------|
| 粒状ケイカル | 稲体を丈夫にし、倒伏やいもち病の抵抗性が増し、pH矯正に効果がある資材(ケイ酸30%、7L割分45%、苦土4%) | 200kg |
| 鉄入りシリカパンチF | 土づくりに必要な成分を一度に施用できる複合資材(ケイ酸25%、7L割分42%、鉄分10%、苦土7%、リン酸5%) | 100~120kg |

ポイント2：有機物の施用

①堆肥や発酵鶏ふんを散布し、地力を高めましょう。

| 堆肥の施用 | 秋施用の場合 | 春施用の場合 |
|---------|--------|----------|
| 牛ふん堆肥 | 2t | 1~2t |
| 豚ふん堆肥 | 1t | 0.5~1t |
| 発酵鶏ふん堆肥 | 150kg | 90~120kg |



- ・堆肥を散布したら速やかに耕起しましょう。
- ・コシヒカリで春施用の場合は、基肥チッソを1~2kg減肥してください。
(基肥206では10~15kg/10a、Jコート北1号または2号は5~10kg/10aを減肥)

②堆肥散布が困難な場合は、地力増進作物を活用しましょう。

| 利用作物 | 緑肥作物名 | は種時期 | は種量(kg/10a) | すき込み時期 |
|------|---------|------------|-------------|--------------------|
| 水稲 | レンゲ | 9月中旬~10月中旬 | 3~4 | 開花最盛期 (4月~5月上旬) |
| | ヘアリーベッチ | 9月下旬~10月中旬 | 4~6 | 4月~5月 |
| 大豆 | | | | |

- ・すき込みから入水まで2週間程度空けてから、水稲を作付けしてください。
- ・次年度の水稲作付けの場合は、基肥チッソを5kg/10a程度減肥してください。
(Jコート北1号または2号の場合は20kg/10aを減肥)

ポイント3：深耕の実施

作土層が浅いと、根が十分に伸長できなくなり、気温や水分変化の影響を受けやすくなります。
秋耕と春耕の2回掛けにより、稲わらの腐熟促進と作土深の確保に努めましょう。

- 作土深15cm以上の確保
 - ・ロータリーによる秋耕と春耕との2回掛けやプラウなどを活用しましょう。
 - ・春耕時はトラクターの速度を落とし、丁寧に深耕しましょう。
- 稲わらの腐熟を促進し、田植後のワキを改善
 - ・秋耕は気温の高い10月中に行い、稲わらを腐熟させましょう。
 - ・長雨などで、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は排水溝を設けて、水はけを良くしましょう。



秋の土づくり運動実施中 9月15日~11月15日